

2015年8月25日発行

地域と協同の 132号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

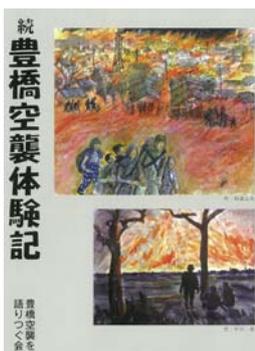
「続 豊橋空襲体験記」の発刊によせて

体験記編集委員 水藤 典子



豊橋空襲は1945年6月19日夜半から20日未明にかけて、B29 136機が豊橋の街を襲撃し、焼夷弾による波状攻撃を約2時間にわたって受けました。6月20日以外にも空襲があり、市当局の記録によると死者624人、被災者71202人もの惨禍となりました。

「豊橋空襲を語り継ぐ会」は戦後40年以上経過した頃、ともすると風化されがちな戦争体験や記録を後世に語り伝えようと、1989年4月18日（日本で最初の空襲のあった日）に市民有志によって結成されました。会は体験者の皆さんや犠牲者の方々の人生や生活がこの空襲によっていかに悲惨な目にあったかを明らかにする中で、二度と戦争の惨禍を繰り返させないための活動の一つとして、空襲の体験をされた方たちにその時の状況や思いなどを書いていただき、体験記としてまとめ後世に残していこうと体験記の募集を始めました。ある程度集まったところで小冊子にして発行し、4集まで発行したところで、2000年に「豊橋空襲体験記」としてまとめ発刊しました。その後も継続して体験記を募集し第五集の小冊子を出した後、文章だけでなく絵画で表現してもらいのもよいのではないかと募集したところ、多くの作品が寄せられ、戦争体験画展を2010年に開催しました。マスコミにも取り上げられ大きな反響を呼び、これをきっかけに体験記を書いて下さる人も増えてきたのですが、書き手の高齢化を考えると今のうちに書いてもらおうと、再度呼びかけをし、多くの原稿が寄せられました。



戦後70年の節目を迎える年にもう一度単行本にまとめて発刊しようということになり、本の内容の検討に入りました。体験記以外に体験画もカラー印刷で入れ、更に偶然入手した“戦災死者埋葬調書”と“豊橋市殉難者合同慰霊祭受付簿”のコピーからこれまで624名という数字でしか示されていなかった犠牲者の方たちの名前を明らかにし、犠牲者名簿を作成し載せる事にしました。二つの資料から名前を判読するのはかなり困難でしたが何とかパソコンに入力、一覧表にしました。昨年からの編集にとりかかり、やっと今年の7月初めに発刊できました。2000部作成し、今、いろいろな方法で普及、販売に取り組んでいます。是非、ご協力下さい。地方都市の空襲の様子が、色々な角度からわかっただけの貴重な冊子に仕上がったと編集委員一同、自負しております。よろしくお願ひします。(お問い合わせは、8ページの事務局までどうぞ)

CONTENTS

研究センター 8月の活動

巻頭エッセイ	
「続 豊橋空襲体験記」の発刊によせて	1
政策提言のための「公開学習会」スタート	
第一回「食料・農業問題と非営利・協同組合の役割」!	2
岐阜地域懇談会「プチフォーラム IN 岐阜」	3
とうかい食農健サポートクラブ総会記念シンポジウム	
「現代の山湊馬波(さんそうばろう)を目指して」	4
情報クリップ	5~7
企画案内・書籍案内	8

1日(土) 共同購入事業マイスターコース第2回
6日(木) 協同の未来塾企画委員会
10日(月) 生協の(未来の)あり方研究会
12日(水) 理事セミナー世話人会/常任理事会
20日(木) 岐阜地域懇談会第9回「岐阜のつどい」石徹白見学
21日(金) 研究フォーラム(パネル)地域福祉を支える市民協同世話人会 /生協の(未来の)あり方研究会
24日(月) 研究フォーラム職員の仕事を考える /尾張地域懇談会世話人会
26日(水) 三重地域懇談会 三重のつどい「立梅用水発電」見学
27日(木) 協同の未来塾第2回

政策提言のための「公開学習会」スタート

文責：向井忍

第一回「**食料・農業問題と非営利・協同組合の役割**」！

地域と協同の研究センターでは、2015年度から16年度にかけて「食料・農業問題」「地域福祉」「グローバルゼーションにおける「国民主権・国家主権」(TPP)」の三分野におけるこれからの非営利・協同組合の役割を「提言」にまとめる計画です。進め方として、公開学習会で主な論点を出しあい、会員である団体・個人の実践や知見をもちより、理事会で継続的に検討することを予定しています。

第一回として7月4日に日本生協連政策企画部の三谷和央さんを講師に公開学習会を行いました。日本生協連が2015年3月に発表した「食料・農業問題と生活協同組合の課題2015」（全文はホームページで検索・入手できます）を学び、活発な質疑が行われました。要旨のご紹介をします。

① **食・農に関する情勢として**、日本の農林漁業の現状について、人口減少・少子高齢化・担い手の高齢化・耕作放棄地、鳥獣被害・世界の人口増加・需給変化・食生活の変化、人口減少を加味した食料消費推計、品目別食料支出割合（調理食品増加、生鮮品の低下）など、大きく変化しています。

② 「**食料農業問題と生活協同組合の課題2015**」をまとめる委員会では（委員長は夏目有人コープあいち理事長）、前半で2014.10に国への意見書を提出し、後半で生協の課題をまとめました。農水省の基本計画をつくる審議会企画部会にも委員として参加し消費者の立場から意見を出しました。「生協の産直事業と食料・農業問題の取り組みに関する調査」を行い、消費者・生産者団体のアンケート結果もふまえて、産直事業だけでなく、食料・農業・地域の課題を把握しています。**食料・農業・農村基本計画に求めたことのポイントは**、まず「これまでの政策について総括し、実効性と一貫性のある政策へつなげること。」です。

さらに「担い手を確保・育成し、地域資源をフル活用し、農業技術を組み合わせて、食料の国内生産力を高めていくこと。」「条件不利地域にある小規模農業への支援を行い、農業の発展と持続可能な地域社会づくりへの両面を追求すること。」「食品の安全、リスク管理の強化、フードディフェンス」「東日本大震災をうけて、農業災害補償制度の充実。」「TPP交渉、食の安全安心、国会決議の遵守、国内農業を衰退させないこと」「農協、協同組合の主体性を守り育成発展に努めることを求めました。

基本計画では、食料自給率目標は下がり、食料自給力指標が初めて公表されています。六次産業化、地域政策、東日本大震災からの復旧も盛り込まれました。今回の政策を**評価すると**「施策を振り返る評価と課題」「施策の安定性の確保」「需要や消費者視点に立脚した施策」「農業や食品産業の成長促進の産業政策と、多面的機能を維持・発揮する地域政策の車の両輪」「幅広い



関係者」「都市と農村交流の戦略的推進」「食品の安全確保と信頼確保」などが入っていることは、消費者として重要です。

③ **生協の課題は、「生協の2020ビジョン」の到達点と三つの基本視点に沿って設定しました。**2020年ビジョンでは「①くらしの変化に対応した事業の展開」「②組合員と生産者のつながり、食育」「③地域社会づくりへの参加、環境保全への貢献」の三つの視点で、全国の生協の課題として「①産直事業の展開」「②国産原材料を使った加工品等の開発と普及」「③食品の安全・安心」「④組合員と生産者のコミュニケーション強化」「⑤食育と食生活改善」「⑥地産地消、6次産業化、地域経済への貢献」「⑦食品の国内生産力の強化」「⑧環境保全・再生可能エネルギー推進」を掲げており、これらにそって取り組みを進めています。

講演をうけて8名から13の質問・意見が出されましたが、いずれも政策提言のポイントとなるものでした。主なキーワードを紹介します。＜食料と農産物の価値の重要性＞＜食料自給力(食料主権、アジアモンスーン地域として)＞＜農業の担い手とは(半農半Xも位置付けること)＞＜地域政策(農村と都市の関係としてみることの重要性)＞＜「消費者の立場」は従来の日本生協連の立場で良いか＞＜国内のルールを整備すること(生協と農協による政策課題・事業連携の課題や障害を粗上にあげたプログラム化)＞＜県農政の政策にどう生かせるか＞＜生協としての課題(中学生以上の参加も)＞＜食品の廃棄問題(生協の関わり)＞。

地域と協同の研究センター 岐阜地域懇談会主催
 「プチフォーラム IN 岐阜」 2015年7月25日

文責 事務局

2月7日(土)『よりよい“暮らし”をつくる地域のつながり！～新しい力とともに未来を探る～』と題して、第11回の東海交流フォーラムがおこなわれ、地域における人と人とのつながりを考えさせられる講演や報告をたくさん聞くことができました。

「この話は絶対コープぎふのみなさんに聞いてほしい！！」との思いから、岐阜地域懇談会の主催でコープぎふ本部にて、7月25日、プチフォーラムを開催しました。

内容は・・・

(1) 「八百津町久田見地区 買い物支援の取り組み」

生活協同組合コープぎふ 多治見支所 支所長 塚田淳氏

J Aの職員が生協のおさそいをしている？！J Aの支店の中に、生協の商品案内が？！農協と生協が連携することで、山間地の集落に住む人たちの買い物支援がはじまりました。困っている組合員さんのためにできる事は・・・から始まった買い物支援の取組みは、次の段階に進もうとしています。

(2) 「地域と共に生きる暮らし」

山口市地域おこし協力隊 中村大祐氏

京都出身の料理人が、世界を旅したあと、夫婦で山口市で暮らし始めました。山県の暮らしを選んだわけは、世界を旅する中での気づきから「吾唯足知・ワレタダタルヲシル」・・・満足することを知っている者は貧しくても幸せであり、満足することを知らないものはたとえ金持ちでも不幸である。地元のおばあちゃん達と農家レストランを始め、そして今、地域活性化のための古民家ゲストハウスを設立。北山地域で20数年ぶりの赤ちゃんも誕生、子どもさんが生まれてきたことで見えてきた田舎暮らしの課題もありますが、彼のチャレンジは続きます。

(3) 「志多ら&てほへが受け継ぐ地域文化と新たな地域創造への挑戦」

NPO法人「てほへ」 副理事長 大脇聡氏

プロの和太鼓集団が練習場所を求めて、愛知県東栄町の山の中へ！廃校となった小学校を借りてそのまま27年間住み続けています。よそ者集団が、町にとけこんで、伝統の「花祭り」を受け継ぎ地域の一員になるまでの、物語。そこには、地域の住民とよそ者を結ぶ、お世話好きな、人望のある、地域のリーダーの姿が欠かせないようです。



↑報告いただいた 塚田 淳氏



中村 大祐氏



大脇 聡氏

参加された方からの声

- ・岐阜県内の身近な場所にこんなすてきな場所があったと知り、嬉しく思いました。住むことは無理ですが観光で行きたい、他の人々に伝えたいと思いました。山口市というと、近いイメージなのですが、場所を見つけようと地図を見たら、ここまで山口市？と思える遠さでビックリしました。便利な暮らし、豊かな暮らし、人口減少、いつもは考えないようにしていることを考える、いい時間になりました。
- ・いいお話ばかりだったので、「地域と協同の研究センター」さんが、どんなことをしてみえるのか知りたくなりました。
- ・このような素晴らしい取組みに生協で応援できる事はないのか、考えさせられました。

現代の山湊馬波（さんそうばろう）を目指して

文責：伊藤小友美

2015年度とうかい食農健サポートクラブ総会記念シンポジウムが、7月11日生協生活文化会館にて開催されました。テーマは「道の駅「もっくる新城」が発信する地域の魅力～人と食とくらしをつなぐ「まちの駅」をめざして～」です。「もっくる新城」駅長の田原直さんにジビエの話や、後継者の息子さんが奮闘を始めた和菓子屋さんの話、売場の商品を知り尽くし、ポップも工夫しているパートさんの話などを伺いました。その中から、一部ご紹介します。

■□ はじめに □■

こんにちは。道の駅「もっくる新城」の駅長の田原です。名前の由来は『木材』と『来る』です。温もりを感じる木材をふんだんに使い、地域の産物を余すところなく活用し、人々が集まる(来る)活気あふれる道の駅をイメージして名づけられました。私は、豊根村で漬物屋、金山時みそ屋をしております。五平餅もつくっています。豊根村は茶臼山のふもとで、人口1200人。標高900m。いまだにこたつが出ています。新城市から道の駅の運営をまかされたのは、名鉄レストランです。友人の紹介で名鉄さんとお会いしたら、「どうしても駅長がいなくて、やってくれんか」と言われました。地域のためになるのなら力を注ぎたいと思って、喜んで引き受けさせていただきました。

3月21日オープン以来、ずっと黒字です。6月はちょっと厳しかったです。

奥三河の特産には、かえで（シロップ）や五平餅がありますが、スーパーメジャーな特産物があるわけではありません。苦労して模索しました。会社全体で考えました。一生懸命まじめにやることで、売り上げをのばす努力をしています。

一日の来場者は1万人近くあります。道の駅には、構成要素、必須要件があり、利用は必ずしも食事や買い物だけではありません。フラッと寄った方、トイレ利用の方だけでもカウントします。どこも、レジ通過者×3を来場者数とすると決めています。「もっくる新城」は年間100万人をめざしています。このペースでいけば達成できそうです。

■□ 山湊馬浪（さんそうばろう）とは □■

豊橋は大きな港でした。そこから伊那街道を登っていくと、新城市です。昔は、海から来た荷物を、豊橋の港町で積み替えました。船にかなうものはありません。海から来た荷物は行けるところまで、川を登って行くのです。限界地点が新城市でした。物流の拠点として、山の湊のようだったと言われます。いろいろな物資、人が集まった地域です。新城市民文化ホールのある絵には、当時の繁栄を表した絵が描かれています。馬の浪とかいて「ばろう」と言いますが、これは、積み替えた荷物が、馬に乗せられて運ばれる様が浪のように見えたことが語源です。「山湊馬浪」とは、行き来する馬を浪（なみ）にたとえ、川船と馬が集まってくる新城を山の湊にたとえたものです。



時代の流れとともに、新城市は過疎地域になり厳しい状況です。道の駅をど真ん中に持ってきていただいたので、繁栄を取り戻すべく、新城市の特産だけでなく、いいものをいろいろ積極的に集めています。新東名高速道路が遅くとも2016年3月には開通します。東西のいろいろなものや人、文化が集まることをめざしてがんばりたいと思っています。

■□ ジャンボ五平餅 ふるさとの味 □■

私は実は、五平餅屋でもあります。名鉄さんとお付き合いしていれば、道の駅で五平餅のコーナーができると思いました。今1日で70万円、売り上げがあるときがあります。私自身ができたかどうかは疑問です。やりたくてもあれだけの量をつくらださうかと思えます。オープンから2ヶ月はずっとそんな感じで、普通の人なら倒れています。

4軒ある五平餅屋の中でしのごを削ったのが「つぐや」さんです。茶臼山の芝桜祭りのとき、茶臼山山頂で、リフト乗り場の前にテントがあります。「つぐや」さんは、家族一丸で戦っています。私はひとりです。おじいちゃん、おばあちゃん、きょうだい、娘、息子、その友達も、犬、猫も、入れ替わり立ち替わりいろいろな人が来ます。私は個人で徹底的に抗戦するがかないません。

「もっくる新城」で五平餅を焼いてほしいと頼みに日参しました。最初は二の足を踏んでいました。忙しいし、つくれるだろうか。「家族一丸で戦うのは強い、それはつぐやしかできない」と話をしました。

写真は12人分の五平餅で、端から端まで110cm



あります。多いときには1日に10本出ます。「もう焼ききれない、かんべんして」となります。2,800円です。五平餅をつくってから焼き台を作りました。家族連れや、グループで楽しんでいただいています。

■□ 結び □■

「もっくる新城」ではダンスやブラスバンドのステージも行われ、若者達も集います。無料の足湯は、休日には順番待ちの列もできるほど人気です。ぜひお越しください。

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
▶これまでも、これからも 組合員に支持され広がる COOP共済の輪	<p>特集 これまでも、これからも一組合員に支持され広がるCOOP共済の輪</p> <p><コープのある風景> 生協ララコープ <こんにちは！生協男子ですっ！> 大阪よどがわ市民生協 小林洋平さん <元気な店舗の運営を学ぶ> コープさっぽろ・星置店 <宅配・現場レポート> ユーコープ・おうちCOOP横浜瀬谷センター <生協大好きママコブ山さんの 教えて！CO・OP商品> CO・OP極深焙煎有機栽培アラビカ100%アイスコーヒー <☆突撃あなたの街の組合員活動☆>生協しまねコープおたがいさまいづも <想いをかたちにコープ商品> COOPスライスチーズ <私の本ナビ> みやぎ生協 <CO・OPニュースフラッシュ> パルシステム東京 ユーコープ <つながろうCOOPアクション情報> いわて生協 <生協職員のための接遇・対応の基本> 第5回 組合員の声から学ぶクレームの受け止め方 <この人に聴きたい> フォトジャーナリスト / 安田菜津紀さん</p>	2015年 8月 A4版 35頁 定価 350～円
NAVI 2015. 8 761		
日本生活協同組合連合会		
▶21世紀の 協同組合運動	<p>■巻頭言 ダイナミックな協同地域社会づくりを構想してみる 藤木千草 (ワーカーズコレクティブ及び非営利・協同の社会的企業の活性化支援組織準備会/協同総研理事)</p> <p>■特集 21世紀の協同組合運動①(コミュニティと協同組合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 21世紀の協同組合運動① (コミュニティと協同組合)を特集するに当たって 相良孝雄(協同総研事務局長) 労働協同組合が仕掛ける地域再生の協同組合モデル(提案) 津田直則(桃山学院名誉教授/協同総研理事) 地域で取り組む再生可能エネルギー事業を事例に、 コミュニティ協同組合の可能性と課題を考える 田中夏子(協同組合研究者/協同総研理事) 再生可能エネルギーと「地益」 -「プラス」と「マイナス」をシェアする地域のあり方を考える- 藤谷岳(久留米大学経済学部 / 協同総研会員) <p>■ 海外レポート 【連載第5回】 イギリスにおける労働者協同組合の現状 -今日的到達点と新たな動き- 松本典子(駒澤大学経済学部准教授 / 協同総研会員)</p> <p>フランス 生産協同組合の規定に関する法律(労働者協同組合法/2015年版)1 Loi n78-763 du juillet 1978 portant statut des societities cooperatives de production. Version consolidee au 15 juin 2015 訳責 協同労働法制化市民会議/日本労協連法制化対策本部 島村博</p> <p>■協同の広場 「協同労働」の探求 ~名古屋からの報告~ 橋本吉広(協同総合研究所 常任理事)</p> <p>■労協連だより 田嶋康利 ■研究所だより 上平泰博</p>	2015年 6月 B5版 64頁 定価1300円
協同の発見 2015. 6 271		
協同総合研究所		

<p>▶都市農業について考える</p> <hr/> <p>月刊 J A 2015. 8 726</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 都市農業について考える ～都市農業振興基本法の制定を契機に</p> <p>都市農業の重要性とJAが果たすべき役割 JA全中都市農業対策推進室 都市農業を都市の側から考える 中井検裕 (東京工業大学大学院社会理工学研究科教授)</p> <p>都市農業が持つ社会デザイン能力発揮という意義 蔦谷栄一(農的社会デザイン研究所代表)</p> <p>・地方紙ニュース 第53回 地方創生の一助にと新商品開発 谷口学 (共同通信社)</p> <p>オピニオンリーダーに聞く 森久美子 ・JAトップインタビュー 地に足をつけた経営で、地域の信頼に応える 埼玉県JA埼玉中央 代表理事組合長 利根川洋治</p> <p>・展望 JAの進むべき道 第27回JA全国大会に思う 谷口肇 (JA全中専務理事)</p> <p>・海外だより 連載 51 [D.C 通信] アメリカ産 “WAGYU(和牛)” 中村岳史</p> <p>次代へつなぐ協同実践塾 ・JA 中期計画の策定・実践について JA 全中経営指導部</p> <p>トピック 3年に一度の国際芸術祭 「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」アートの力で“地域おこし” JA 全中広報部</p>	<p>2015年 8月 A4版 47頁 年間購読料 5,109 円(送料込)</p>
<p>▶食品スーパー —好調を生む戦略</p> <hr/> <p>生活協同組合研究 2015. 8 475</p> <p>(財) 生協総合研究所</p>	<p>■ 巻頭言 これからの生協に求められること 新保雅子</p> <p>▶特集 食品スーパー —好調を生む戦略 食品スーパー 今とこれから —何が優劣を生むのか— 荒井伸也 「勝ち組」に向けての「問屋利用論」 千木良治 小売業界における「好調組」食品スーパーの位置づけ 白鳥和生 食品スーパー生き残るための将来構想 中井彰人</p> <p>コラム 「日本最大の6次産業」を掲げる神戸物産 —独自のビジネスモデルを追及、成長続ける— 森本守人</p> <p>■ 海外情報 イギリス・コーポラティブ・グループの再生への歩み 佐藤孝一</p> <p>■ 時々再録 対談 「戦後70年を語る」 村山富市元首相 河野洋平元官房長官 白水忠隆</p> <p>■ 本誌特集を読んで (2015・6) 後藤千恵・佐宗健二</p> <p>■ 新刊紹介 常見陽平 『「就活」と日本社会 平等幻想を超えて』 堀井豪人 大本隆史</p>	<p>2015年 8月 76頁 B5版</p>
<p>▶地方自治と 協同組合の関連性を 考える</p> <hr/> <p>にじ 2015 秋号 第650号</p> <p>社団法人 J C 総研</p>	<p>[オピニオン] 秋葉武 (立命館大学教授)</p> <p>[特集] 地方自治と協同組合の関連性を考える 特集解題 杉本貴志 (関西大学教授)</p> <p>(論考編) インタビュー 未来を先取りする協同組合たれ 浅野史郎(元宮城県知事・神奈川大学特別招聘教授) 韓国における協同組合と地方自治体の連携 —ソウル市の“社会的経済基本条例”の意義— 丸山茂樹(当研究所 客員研究員) 英国地方自治の危機とレジリエンス —英国サンダーランド市と中間支援組織の取組みから— 原田晃樹 (立教大学教授) 新自由主義改革下の協同組合の福祉事業の課題と住民自治 鈴木勉 (佛教大学教授)</p> <p>(実践編) 労働者協同組合と地方自治 —当事者である住民が主体となる公共とは— 相良孝雄 (協同総合研究所事務局長)</p> <p>買い物困難地域における買い物支援とコミュニティの再建 —「自治」再興に貢献する生活協同組合の移動販売車事業</p>	<p>2015年 秋号 B5版 183頁 定価1600円</p>

	<p>杉本貴志(関西大学教授) 愛媛県八幡浜市内における漁村振興と地域協働 竹之内徳人(愛媛大学准教授) 住民とJAと行政が創る安心して暮らせる地域社会 -JA信州上田“住民参加型”福祉の取組み-小川理恵(当研究所主席研究員) 地方自治体とJAとの連携による新規就農支援の取組み 和泉真理(当研究所 主席研究員) 「地方創生」における協同組合の役割 坂本誠 (NPO法人ローカル・グランドデザイン理事・早稲田大学非常勤講師) [特別寄稿] 農協法改正案を検証する 事業運営原則をめぐって 石田正昭 (龍谷大学教授) 農業協同組合中央会に係る事項について 多木誠一郎 (小樽商科大学教授) [連載 I] 原発災害下での暮らしと仕事 -生活・生業の取り戻しの課題 (第5回) 加害者保護へ向かう原子力損害賠償制度 -議論なき改定、再び事故へ- 本間照光(青山学院大学教授) 原発に頼らない電気を自分たちで作る -福島から全国へ福島県農民連による 自然エネルギー発電所づくり- 豊田陽介/佐々木健洋 [連載 II] 地域発 再生エネルギーの取組み (第1回) 連載解題 村田武 (九州大学 名誉教授) 今日的な再生可能エネルギーをめぐる情勢とその影響 -接続保留問題と固定買取価格制度の見直しを中心に 豊田陽介 (特別非営利活動法人 気候ネットワーク 主任研究員) JAが取り組める再生可能エネルギー -畜産バイオマス発電の実態と事業化をめぐる諸課題 川原林孝由基/村田武 (当研究所 主任研究員 / 九州大学 名誉教授)</p>	
<p>▶医療と平和</p> <hr/> <p>文化連情報</p> <p>2015. 8</p> <p>449</p> <p>日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (19)「湖から洋へ」の合併準備 結城政美 医療機器と保守事業 10年の推移と今後の展望 加賀谷晃 医療と平和 -若月俊一先生の思い 松島松翠 医療介護問題を読み解く (2) DPCと慢性期包括評価 池上直己 病院建築と環境 (1) 美しい病院のみが環境対策可能である 長澤 泰 農村医学運動は世直し運動! ~私の歩んできた道(5) 貧乏学生の生き方 小山和作 伊勢原協同病院の病院給食 (7) メンズキッチン 石井洋子 いのち育む農業体験学習の可能性 (最終回) 生き方を問い直す 川妻干将 地域産業との連携による再生可能エネルギーの新展開(3) 地域産業との連携が重要なバイオマス発電 -林業・製材業が盛んな真庭市の実例から 大平佳男 山梨の検診事業から学ぶこと 東 公敏 厚生連病院臨床研究研修会報告 西山 潤 岡田玲一郎の间歇言(130) 提供するケアの質にグループ全体で責任を 第37回農協人文化賞受賞にあたっての「わが体験と抱負」 武藤喜久雄 野の風● 雪がとけたら 松本大輔 デンマーク&世界の地域居住 (75) イギリスの訪問介護 松岡洋子 グーテンターク、ドイツ (11) ドイツの教育問題-学術の国の悩み 鶯殿博喜 オスペダーレ・マッジョーレ・ボローニャ(2) マッジョーレ病院の医療機能 小磯明 日本の古代国家形成の謎 ~古代日朝関係史からアジアの“いま”を考える~ 村上一彦</p>	<p>2015年 8月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-3370- 2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✿)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。 詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

生協総合研究所 第25回全国研究集会のご案内

「超」高齢社会をどう迎えるか ～「2050研究会」から地域社会と生協への提言～

日時：9月26日(土) 10:00～16:20

場所：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1F リバティホール(東京都千代田区神田駿河台1-1)

将来の年齢構成をみると必然的に「大介護」の時代となる。とはいえ明るい展望として、70歳代でも10人に9人が「自立して生活できる元気な高齢者」になると想定されるのが2050年である。少子、「超」高齢、人口減少、単身、元気な高齢者、これらが2050年への確実な潮流である。くらしと地域が変わるこの未来に向けて、私たちはどのように創造的に適応していくのか。

2050研究会の提言をもとに、『2050年 超高齢社会のコミュニティ構想』(岩波書店)が8月25日に刊行される。本書では、これから私たちが取り組むべき具体的なプランを提示している。なお、本書は当日資料として全ての参加者に配布される。是非とも、ご参加いただきたい。

- 主な内容：講演【1】提言の総括報告 京都大学大学院教授 若林靖永
 講演【2】単身化社会のゆくえと親密圏の再構築 放送大学副学長 宮本みち子
 事例報告【1】「柏プロジェクト」活動報告 株式会社ニッセイ基礎研究所主任研究員 前田展弘
 事例報告【2】たまり場「ひだまり」活動報告 ヘルスコープおおさか常務理事 小森佳子
 パネルディスカッション【1】若者が大いに語る未来
 パネルディスカッション【2】「2050年 超高齢社会のコミュニティ構想」の著者たちが大木に語る未来

●お問い合わせ 公益財団法人 生協総合研究所 中村・遠藤・茂木 TEL: 03-5216-6025 FAX: 03-5216-6030

●お申し込み方法と参加費など、詳細について⇒公益財団法人 生協総合研究所のホームページの案内

http://ccij.jp/activity/zenkoku150701_01.htmlをご覧ください。

書籍案内



原発労働者 講談社現代新書

著者：寺尾紗穂 発売日：2015年06月17日

定価：本体760円(税別)

現場の声から見えてきた驚きの実態とは？
 ゼロから原発を考え直すために
 ひとりの音楽家が全国の原発労働者を訪ね歩き
 小さな声を聴きとった貴重な証言集！

【平時の原発労働を知る】

日本に地震があるから、津波があるから、ではない。
 安全基準が信用できないから、放射能が漏れると怖いから、でもない。
 今から私がスポットをあてるのは、チェルノブイリや福島のような大事故となった非常時の原発ではなく、平時の原発で働き、日常的な定期検査やトラブル処理をこなしていく人々だ。
 彼らの視点に立つことで、社会にとっての原発、ではなく、労働現場としての原発、労働者にとっての原発、といった角度から、原発をとらえなおしたい。——序章より

ホームページ講談社BOOK倶楽部より

研究センター 9月の活動予定

- 2日(水) 研究フォーラム(パネル)食と農ベルファーム見学
- 5日(土) 共同購入事業マイスターコース第3回
- 8日(火) 三重のつどい 世話人会
- 10日(木) 理事ゼミナール第7回
- 11日(金) 岐阜地域懇談会世話人会
- 12日(土) 東海交流フォーラム実行委員会/公開学習会
- 13日(日) 研究フォーラム(パネル)環境世話人会
再生可能エネルギー学習会
- 14日(月) NEWS編集委員会
- 16日(水) 常任理事会
- 17日(木) 三河地域懇談会実行委員会
- 24日(木) くらしを語り合う会

2015年8月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>